

会 議 録

会議名	第3回まちづくり委員会		
開催日時	平成20年4月23日(水) 午後6時30分～8時30分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、野沢宏明、牛丸喜美子、小澤一智、三堀善業、原美子、倉田英勇、熊谷久司、小林代治、赤羽武栄、山寺恭子、中谷一美 (町) 小澤、宮原(修)、宮原(利)、翠川	出席人数	
		委 員	13人
欠席者 (敬称略)	(委員) 遠藤清文	町	4人
		計	17人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 配布資料の確認 4. 協議事項 (1) ワークショップ テーマ「私の知っている協働のまちづくりとは」 (2) 次回のテーマについて 5. その他 6. 閉会		
資 料	(事前配付資料) ・ワークショップ参考資料		
会議結果	○ワークショップ結果(別紙1・2) ○次回のテーマについて ・Aグループ「協働のまちづくりの課題を見つけよう」 ・Bグループ「協働を推進するためには何が必要か？」 ○次回委員会 平成20年5月29日(木) 午後6時30分～		
発言者	発言の内容		
自己紹介			
赤羽委員	平成20年度の区長会長ということで、今回からまちづくり委員会にもお世話になることになりました。皆さんに教えて頂きながら目的達成のために力になればと思っていますのでよろしくをお願いします。		
事務局	事務局では、宮原補佐と宮原係長がお世話になりますのでよろしくお願いします。		
副委員長	開会		
委員長	あいさつ		
事務局	ワークショップについての説明。		
アイスブレイク	事務局で用意した名刺を使い、2名ずつのペアを作り、2分間の自己紹介・自己PR。名刺を6枚用意し、上記作業を6回行う。		
ワークショップ	委員を2グループ(A・Bグループ)に分け、ファシリテーター(A:垣内委員長、B:牛丸委員)の進行によりワークショップを実施。 テーマを「私の知っている協働のまちづくりとは」とし、最後に両グループ作業結果を発表した。 成果物は別紙1・2		

A 委員	<p>〈発表〉</p> <p>A班では、各委員から出された事例を別紙1のようにグループ分けをしました。手段として各地区のホームページ等を作成して町民への周知などが考えられます。</p>
B 委員	<p>〈発表〉</p> <p>A班では具体的事例を挙げたようですが、B班では、意識改革のような精神面のことを上げてみました。出された意見のほとんどが意識改革のことでしたので、このことからこの取り組みが一番重要視されるのではと思います。グループ分けした結果は別紙2のとおりです。</p>
委員長	<p>次回のAグループのテーマは「協働のまちづくりの課題を見つけよう」とします。</p>
C 委員	<p>次回のBグループのテーマは「協働を推進するためには何が必要か？」（理解を高めるためには何が必要か？）とし、課題について話し合います。</p>
事務局	<p>次回の委員会は5月29日（木）午後6時30分から行います。</p>
副委員長	<p>閉会</p>

〈Aグループワークショップ結果〉

テーマ 「私の知っている協働のまちづくりとは」

○地域コミュニティ、まつり、伝統行事、ものづくり

- ・下辰野商店 だるま祭
- ・荒神山 さくら祭り
- ・沢底 福寿草祭り
- ・北大出区 天狗祭り
- ・神戸 すいか祭り
- ・氏神様祭り
- ・上平出地区 菜の花祭り
- ・川島地区 紅葉祭りと名所の美化
- ・神戸区 水仙祭りと菜の花摘み
- ・ほたる祭りを中心とするほたるの育成・調査 公園整備
- ・地区運動会
- ・各地区球技大会
- ・川島（渡戸）どろんこ田んぼバレー大会
- ・上平出地区 童謡公園整備
- ・上島区の山野草の公園整備
- ・川島地区の炭づくりやそば打ち
- ・上島区 おいしい米作り
- ・今村区 三十三札所
- ・辰野町消防団
- ・上平出地区 はしご乗り（消防団）

○行政との協働

- ・全区で行っている公共物の修理、整備
- ・まちづくり支援金事業
- ・住民による有害鳥獣駆除
- ・住民による町道・林道の整備改良
- ・水路の整備改修
- ・各地区で行われているせぎ河川の保全事業
- ・資材支援事業
- ・宮所区の龍ヶ崎公園の整備と文化歴史標識
- ・羽北地区を中心とした道路問題の取り組み
- ・ごみゼロ運動（各地区で実施）
- ・道の駅
- ・上島地区 かたくり等保護・・・今後期待
- ・下田さん会長の特産の町おこし（地場特産品の開発と町おこしを考える会）
- ・荒廃農地の利活用（農地に戻すために伊那市のグリーンファームの取り組み）

○子供、学生、育成、安全

- ・安全パトロール
- ・児童生徒の登下校安全見守り
- ・小学生の登下校の見守り、あいさつ運動など
- ・豊南短大の学生の受け入れボランティアや農業体験など
- ・両小野振興会の活動
- ・羽北地区 側溝整備

○福祉、NPO、団体、区

- ・NPO団体「あかり」の在宅介護
- ・NPO法人の有償在宅福祉サービス、デイサービス、子育て支援など
- ・国際交流委員会 城前さくら祭り
- ・新町はつらつクラブ
- ・災害時の支え合いマップづくり
- ・要援護者の見守り
- ・高齢者の買い物、通院支援

○手段

- ・地区ホームページ作成

〈Bグループワークショップ結果〉

テーマ 「私の知っている協働のまちづくりとは」

○意識

- ・自分の部落でもいろいろな問題を取り上げて発展につながる方法を考えるグループを作って動き出している。これも協働だと思う
- ・女団連の各団体の活動は、協働の意にかなっている
- ・お金儲けではなく、文化講演会等開催してくれる。例えば新聞販売店で行っている催し等
- ・地域と町民が一体となって行うもの
- ・行政に頼らず、地域の住民が率先して行うもの
- ・行政に全てお願いしない
- ・地域で不都合な事は住民が力を合わせる
- ・去年のデータを見ると、町で行うことの部分も協働してやっている印象もあるが、町と切り離して独自の方法も考えていくべきだと思う
- ・意識を上げれば協働が進む
- ・町あるいは町民からの呼びかけにお互い関心を持ち考えてみよう
- ・物質的な面ばかりではなく、精神的な面での協働が特に必要な時代に入っていると思う
- ・協働という意味を子供から大人まで各々の理解をするまでが大変な苦勞と思われる
- ・何かを作ったり作業をする等の他、互いの心のつながりの協働を進めたい
- ・各地域でやることのほか、何かテーマをしぼり全町一斉にごみゼロ等のような活動があると意識が浸透していく
- ・美しい町とは心も環境も良くなること
- ・一人でする事も協働と考えれば「役と」は関係なくやっている事になる
- ・それぞれができる事を協力する
- ・個人でもみんなでも「人・もの・資源」を大切にする
- ・協働の範囲が広すぎるのでテーマをしぼる必要がある
- ・範囲が広すぎるので間口を狭くして深く突っこんでいく必要を感じる
- ・身体を動かすように、地域の事に当たり前に手を出すのは無理なのか
- ・役員しか参画していない。一般まで届かない
- ・ごみを放置する人の気持ちが理解できない どうすればよいか？
- ・一人暮らしの老人が参加してきた時の思いを知りたい
- ・障害者福祉の考え方が少ない
- ・青少年育成（未来ある子供たちのために行うもの）
- ・男性と女性とのかかわりが協働に対して少ない
- ・協働の真の意味が不明です

○時間的

- ・協働について長期の視点が必要

○金銭的

- ・ほたる祭りを民間で
- ・「協働のまちづくり」で土木工事などを行うと、小さな建設業が仕事が減って困るような事はないか
- ・区は収入に対し、支出要望が多い。しかし要望には応えたい
- ・行政は物資面の援助はあるが、金銭的な援助が足りない
- ・町はお金がないとして公共の事業が遅れていて不便が多い。よって協働でできる事は住民で

○人員的

- ・協働で健康づくりと仲間づくりを
- ・介護予防に自ら参加しつつ、面倒を見ている人もいる
- ・子供の安全を守るための見守隊、車の巡視の活動
- ・地域で力を合わせて作業をする
- ・障害者の送迎が少ないので困る
- ・若い人に協働のまちづくりを考える機会を作ってみては
- ・ボランティアと協働のまちづくりを結びつけたい

○他

- ・町の雰囲気暗すぎる。みんなで明るいまちづくりに
- ・清掃奉仕の協働が一部の人しか目につかない
- ・地域でなくそごみの減量化作戦
- ・大学の公開講座は勉強のチャンスを得る事ができ、ありがたい
- ・実際に協働を進めるには具体的に何が必要かわかりにくい
- ・昔は当たり前だった異世代交流。そこから自然に協働作業が生まれていたと思われる
- ・社協発表会の内容からすると子供の頭の柔らかさ、適応性の速さ等目を見張るもの。その力を参画させてこそ実が上がる協働
- ・子供たちがどのように捉えているか興味深い
- ・協働の一端として町へ要望事項を決め、町政への意見を具申する（道路・その他）
- ・協働に対し子供の考え・意見を十分に拾い上げる機会を作る

○課題

- ・皆で少しずつの力を出し合ってやって行ければよい
- ・協働において時間的な事も大切
- ・ボランティアと協働のまちづくりを結びつけるには何が必要か
- ・ボランティア精神がないと協働が成り立たない
- ・協働を理解するためには何が必要か
- ・意識を上げているためには何が必要か